

## 会 議 要 旨

会議名	平成30年度 第1回館山市文化財審議会
開催日	平成30年 7月17日(火) 午後1時30分から3時30分
開催場所	館山市コミュニティセンター第1学習室
出席者	文化財審議会委員 6名 教育委員会教育長、事務局 3名
公開・非公開の別	公開
非公開の場合の理由	
傍聴者	0名
会議概要・結果等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開 会</li> <li>2. 館山市教育委員会 あいさつ</li> <li>3. 委嘱状交付</li> <li>4. 役員選出</li> <li>5. 会長あいさつ</li> <li>6. 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「布良崎神社の石棒」の指定について</li> <li>(2) 「慈恩院のオハツキラッパイチョウ」の指定について</li> <li>(3) 「妙音院のオハツキラッパイチョウ」の指定について</li> </ol> </li> <li>7. 館山市文化財の指定に関する答申書の答申について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「慈恩院のオハツキラッパイチョウ」</li> <li>(2) 「妙音院のオハツキラッパイチョウ」</li> </ol> </li> <li>8. 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 映像記録作成事業について</li> <li>(2) 赤山地下壕跡における環境調査について</li> <li>(3) 館山市立博物館の現況について</li> </ol> </li> <li>9. その他</li> </ol> <p>質疑応答・意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・布良崎神社の石棒は点紋緑泥片岩で、市内上真倉から同一形式のものが出土しており、縄文時代中期末～後期前半に関東地方北西部から持ち込まれたと考えられる。</li> <li>・神社の宝物としての価値を重視するとのことだったが、調査の結果、考古資料としても価値があることが判明した。</li> <li>・同等のものがあつた際に指定すべきか迷うが、布良崎神社の石棒はこれまで確認されている石棒の中でも県内最大級の完形品である。博物館所蔵の石棒も指定の価値があるが、市の所有であり安定して所蔵しているので急ぎ指定する必要はない。</li> <li>・研究が進むにつれて考察は変わる可能性があるので、踏み込んだ考察については指定事由からは外した方がよい。</li> </ul>

⇒答申書を梶山委員と事務局が作成し、次回の会議で確認し、同日教育委員会に答申する。

・慈恩院、妙音院のオハツキラッパイチョウは、これまでの調査の結果、樹木によりオハツキ、ラッパの片方が多いという特徴はあるものの、ラッパ、オハツキの双方が確認されている。

・市内のイチョウ調査も実施しているが、他にオハツキイチョウ、ラッパイチョウは確認されていない。

⇒審議の結果、指定に相当するということで結審をし、答申した。

・映像記録作成事業は市外も撮影するのか。

→業者は市内の撮影を行っている。調査の一部として市外のものも対象としているので職員が調査撮影を行っている。

・赤山地下壕跡は壁画がある史跡と違う。まだ無理に地衣類をとらなくてもよいだろう。

・赤山は内部の地形が非常によく見える。戦争遺跡としてだけではなく地層など地形的な特徴も売り出してはどうか。

→地形の観察を目的とする入壕者も多い。地形に焦点をあてた宣伝も行っていく。

・市立博物館分館（渚の博物館）所蔵の漁撈用具は、施設運営の現状を考えると、露出展示が保存管理のうえで適切であるか再考の必要がある。

・今後も人的配置が困難である場合は、常設展示を2階展示部分のみとし、1階部分は希望者があった場合のみ開放する、決まった日程のみ開放するなどの制限を加える必要がある。年に数回の展示解説会を開催し、そこで公開するといった方法を検討してほしい。

→博物館へ提案し、協議する。